

令和 8 年 第 2 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
1	星名大輔	<p>1. 窓口受付時間について</p> <p>第三次総合計画では目指すまちの姿として「雪と生きる。大地に遊ぶ。未来を創造するまち とおかまち」が示されました。市役所も十日町3.0にふさわしい姿を目指してください。</p> <p>さて、市民生活課などの窓口受付時間は、午前8時半から午後5時15分となっています。当市ではこれまで行政との接点について市民の利便性を高める様々な取り組みを積み重ねてきたところです。全国の自治体の中には、職員の働き方を変革するとともに、生まれた時間をクリエイティブな仕事に振り向け、もって市民サービス向上につなげるなどの目的から、窓口受付時間を短縮する動きがあります。当市においては窓口受付時間を今後どのようにする考えかお伺いします。</p>	市 長
		<p>2. 防犯灯の設置及び更新について</p> <p>防犯灯についてはLED化を進めていただき、市の交通安全及び犯罪防止に役立っています。</p> <p>もっとも、更新費用を抑えるため全ての防犯灯を更新せずに間引いて更新するといった、更新に関するお悩みを聞きます。防犯灯設置事業は無くなりましたが、当市の規則では、集落内の防犯灯の設置に係る経費及び維持管理に要する経費は、当該集落が全額を負担する一方で、防犯灯本体に係る経費は、市の負担とされています。</p> <p>そこで、市は防犯灯の設置及び更新にそれぞれどのように関わっていく考えかお伺いします。</p>	市 長

令和8年第2回定例会一般質問発言順序表

番	質問者	質問題目・要旨	答弁者
2	俵山 裕	<p>1. 下水道施設の老朽化対策、現状と今後の計画について</p> <p>国は、昨年1月に埼玉県八潮市で起きた下水道管渠が起因する道路陥没事故を踏まえ、硫化水素による腐食の恐れが高い場所の点検頻度を「5年に1回以上」を「3年に1回以上」に増やすなど下水道法等の改正が予定されています。全国の下水道管総延長約50万キロメートルのうち、令和5年度末で約4万キロメートル（総延長の約8%）が標準耐用年数50年を経過、20年後には約21万キロメートル（総延長の約40%）となるなど、今後は急速に増加する見込みであります。</p> <p>処理場においては、機械・電気設備の標準耐用年数15年を経過した施設が約2,000箇所（全体の90%）と老朽化が既に進行している状況です。</p> <p>当市において、現在の老朽化に対する取組と改定される下水道使用料との関連性について以下の2点をお伺いします。</p> <p>(1) 老朽化に対する整備計画と進捗状況について</p> <p>(2) 改定される下水道使用料と今後の具体的な整備内容との関連性について</p>	市長
		<p>2. 大規模災害における要配慮者の対応と体制について</p> <p>近年、全国的に地震や大雨などの災害が頻発しています。当市においてもここ数年、災害級の降雪があり、大規模災害発生リスクが高まっています。</p> <p>中越大震災から20年、新潟・福島豪雨災害から15年が経過しました。当時の教訓を踏まえ、地域防災計画や国土強靱化計画などを策定し、災害に備えています。しかし、生活様式の変化や少子高齢化の進行により、避難生活の多様化、支援を必要とする要配慮者の増加、そして、支援者のマンパワー不足など、状況は日々変化しています。</p> <p>つきましては、日頃の備えとしての防災学習や防災訓練の実施状況、災害発生時における要配慮者への支援体制についてお伺いします。</p>	市長

令和 8 年 第 2 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
3	富井高志	<p>1. 観光振興について</p> <p>国では、観光を、地域経済や日本経済の発展をリードする戦略産業と位置付けた上で、観光政策を積極的に推進しています。</p> <p>当市においても、第三次十日町市総合計画の政策の一つに「人びとが行き交い繋がり深まる魅力あふれるまち」を掲げており、観光振興は今後の当市の発展にとって、極めて重要なことと認識しておりますが、一方で、観光産業による地域経済の活性化効果について、疑問や課題の指摘が散見されます。</p> <p>今後、観光振興によって、魅力と活力あふれる十日町になることを念願し、以下の点について伺います。</p> <p>(1) 大地の芸術祭について</p> <p>前回展の総括報告書には、多くの成果や課題が明らかにされていきました。大地の芸術祭実行委員会におかれては、そのことを踏まえ、来年に予定されている 10 回展に向けて準備を進めていることと推察いたします。今回、私からは、地域経済への影響が大きいと思われる、観光客の回遊や越後妻有地域での宿泊についての課題対策など、旅行消費額の増加につながる取り組みを伺います。</p> <p>(2) インバウンドについて</p> <p>政府は、今年の 3 月に「観光立国推進基本計画」を閣議決定しました。これまでの人数を増やすという方針から、人数よりも消費額や地方分散、持続可能性を重視する方針を鮮明にしています。当市のインバウンドに対する方針を伺います。</p>	市 長
		<p>2. 子どもたちの命を守る安全なバス運行について</p> <p>5 月に発生した、部活動のバス事故では尊い命が奪われ、多くのケガ人が出てしまいました。この事故を教訓とし、当市において、部活動や登下校等のバス運行に際しての実態調査や安全点検、ガイドライン等の見直しなどを実施したのか、実施したのであれば、その内容について伺います。あわせて中学校の部活動の地域展開時の送迎についてもお願いします。</p> <p>また、今春も熊が頻繁に出没しています。昨年 12 月定例会での星名大輔議員の一般質問に対し、教育長から、「熊対策スクールバスの運行のほか、12 月からの予定としておりましたスクールバスの運用を、小中学校 7 校では前倒して実施しております。」との答弁がございましたが、その具体的な内容と今年度の対応を伺います。</p>	教育長

令和 8 年 第 2 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
4	野沢浩平	<p>1. 空き家対策と公共施設の再利用について</p> <p>当市では、人口減少・高齢化・移転により、空き家問題が年々深刻化しています。特に、豪雪による倒壊、景観悪化、周辺道路の閉塞などを引き起こす原因となります。本年も雪の重みで倒壊した建物もありました。また、統合により閉鎖となっている学校等の施設があります。そこで以下の点について伺います。</p> <p>(1) 市内における空き家の現状に関し、以下の件数について伺います。</p> <p>① 空き家件数 ② 管理不適切空き家件数 ③ 管理不全空き家件数 ④ 管理不適切空き家のうち、所有者不明空き家件数</p> <p>(2) 豪雪による倒壊リスクについて、どのような危機感を持っているのか伺います。</p> <p>(3) 管理不適切空き家への対応について伺います。</p> <p>相続放棄・管理放棄された管理不適切空き家について、空家等対策の推進に関する特別措置法に基づき、管理不全空き家が位置づけられました。今後、市としてどのように空き家対策を進めていくのか伺います。</p> <p>(4) 学校等公共施設の再利用について伺います。</p> <p>今後は、「活用できる学校等の公共施設を地域資源へ転換する視点」が重要と考えます。そこで、利用方法として、大地の芸術祭との連携、宿泊施設、高齢者福祉施設等への再利用が考えられますが、市としてどのように推進していくのか伺います。</p>	市 長 教育長
		<p>2. 老朽構造物・危険樹木の総点検について</p> <p>先日、地元の方から「清津峡入り口案内看板が倒壊した。」との報告を受けました。中里支所に確認した所、看板は県の所有であることが解りました。幸い人的な被害が無かったのですが、普段は看板をバックにした撮影スポットでもある為、万が一、人が居たら大事故につながる事が予想されます。市内には大地の芸術祭の作品や看板が点在しています。また、公園や学校の樹木が強風の影響で倒壊する事例が各所で起こっております。ゆえに、同様な事故が起きない様、点検等の対策が必要ではないかと考えます。そこで以下の点について伺います。</p> <p>(1) 大地の芸術祭の作品や看板の点検状況について (2) 公園や学校の樹木の点検状況について</p>	市 長

令和 8 年 第 2 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
5	市川直子	<p>1. 将来を見据えた十日町市の業務改革について</p> <p>人口減少や少子高齢化が進む中、十日町市においても今後さらに職員確保が厳しくなることが想定されます。今年度の正職員採用においても募集人員が充足していない状況がある中、市民サービスを維持・向上していくためには、業務改革やDXの推進が重要であると考えます。</p> <p>先般、高知市の「書かないワンストップ窓口」を視察する機会を得ました。単なるデジタル化ではなく、業務フローの見直しや職員負担軽減、市民の利便性向上を一体的に進める取組が行われておりました。</p> <p>また、業務効率化によって生み出された人的資源を、人にしかできない支援や、部署を横断した課題解決へ活用していく視点も重要であると考えます。</p> <p>そこで、以下について市長のお考えを伺います。</p> <p>(1) 人口減少や職員採用難が進む中、十日町市における業務改革及びDX推進の必要性について、どのように認識していますか。</p> <p>(2) 窓口業務における「書かない窓口」「ワンストップ窓口」などの導入について、調査・研究状況及び今後の方向性を伺います。</p> <p>(3) 業務効率化により生み出された人的資源を、相談支援や障がい者支援など、人による支援が必要な分野や、部署を横断した課題解決を行う分野へ活用していくお考えはありますか。</p>	市 長

令和 8 年 第 2 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
6	樋口富行	<p>1. 住民も観光客も安心して過ごせるための公衆トイレを</p> <p>中里地区の中心部には公園と名の付く施設がありません。ましてや公衆トイレ也没有ありません。越後田沢駅の待合室にあるだけです。中里支所前にもありません。支所にあるのは、松之山だけです。隣の津南町には役場の駐車場横にあります。十日町市役所にもありません。施設にトイレを借りるだけで入る事に気が引ける人達もいます。</p> <p>観光客で賑わう清津峡には、越後湯沢駅と野沢温泉を結ぶ午前中2回、午後2回の路線バスがあり、バスを利用する人達が20人から30人、多い時は40人位います。清津峡には、駐車場横とトンネル内にトイレがあり、又、清津峡からバス停までに2箇所の簡易トイレが設置されている状況です。帰りのバス停では、雨の日も雪の日も傘をさし、暑い日は太陽の陽射しをまともに受けて道端で待っています。その間にトイレに行きたくなくて困っている観光客が多いと聞いています。新幹線と定期バスを乗り継いで来た観光客をもっと大切に迎えるべきではないでしょうか。</p> <p>利用しやすい公衆トイレがしっかりと整備されたまちづくりは、住民からは安心感、観光客からは思いやりが感じられると思います。これらの事を踏まえて市長にお伺いします。</p> <p>(1) 各地域の中心に利用しやすい公衆トイレの整備ができないか。 (2) 清津峡のバス停に公設のトイレ付き待合室が設置できないか。</p>	市 長
		<p>2. 子どもたちが学校で安心して過ごすための環境づくりについて</p> <p>学校の個室トイレに、生理用ナプキンを無償提供する自治体もあります。</p> <p>学校で子どもたちが生理にまつわる不安や不便を感じることも無く、安心して時間を過ごせる環境づくりが大事ではないでしょうか。令和3年9月議会で富井春美議員が生理の貧困をテーマにした一般質問の答弁で、松代小学校が個室トイレに生理用ナプキンを配置していましたが、その後の進展状況と、今後の取組方針についてお聞かせください。</p>	教 育 長

令和 8 年 第 2 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
7	大嶋由紀子	<p>1. 飛渡第一小学校統合後の教育活動継承について</p> <p>飛渡第一小学校の統合に関する要望書が令和8年4月9日に提出されました。統合時期については、令和10年4月1日付けで、十日町市立中条小学校と統合することとされました。</p> <p>統合につきましては、地域や保護者の皆さまが子どもたちの未来を真剣に考え、苦渋の中で大きな決断をされたものであり、深く敬意を表します。</p> <p>飛渡第一小学校は十日町市唯一のユネスコスクール認定校であります。統合にあたっては本部への手続き等も必要になると伺っております。地域からはこれまで培われた理念や教育活動を今後も引き継いでほしいとの声があります。また、中条小学校においても縄文学習など理念に通じる教育実践が行われています。そこで、以下について伺います。</p> <p>(1) 今までの飛渡第一小学校のユネスコスクール活動について (2) 統合後のユネスコスクール活動についての可能性について等伺います。</p>	教育長
8	滝沢 繁	<p>1. 雪問題について</p> <p>令和8年も大雪になり、1月下旬から2月にかけて急激な降雪に見舞われ、雪での死者4名、建物損壊は相当数に上りました。又個人宅でも雪下ろしに追われ、身も心も金も疲弊したわけですが、毎年のこうした苦労は雪が消えてしまえば、何もなかったことのように過ぎ去ります。しかし、自助、共助、公助においてさらに絆を深め対策が求められます。当市は雪対策に要援護世帯除排雪援助事業、認定外道路除雪、冬期集落安全・安心確保対策事業など優れた支援があります。そうしたものをより豊かに進めるために住民からも意見を寄せていただいているのか、そうしたものを形作って行く必要があります。そこで以下の質問をいたします。</p> <p>(1) 3月議会でも質問がありましたが、春先の穴だらけの道路修繕は何故雪解けと同時に始められないのか。 (2) 冬期集落安全・安心確保対策事業において保安要員さんからの要望や意見の集約はされているのか。 (3) 広域連携のお話もありましたが、雪下ろしの人材不足についてどのように考えているのか。 (4) 災害救助法の運用基準の見直しを県が検討しているが、十日町市としてどのような働きかけをしていくのか。 (5) 要援護世帯除排雪援助事業の支援については、増額を検討されているということですが、方向は出たのか。</p>	市 長

令和 8 年 第 2 回 定 例 会 一 般 質 問 発 言 順 序 表

番	質 問 者	質 問 題 目 ・ 要 旨	答 弁 者
9	富井春美	<p>1. 中東情勢から生活を守る対策について</p> <p>アメリカとイスラエルによるイラン攻撃を発端にしたホルムズ海峡封鎖による影響が広がっています。原油やナフサ不足による石油製品が不足し、食料品、光熱費など物価高騰に拍車がかかっています。</p> <p>市内の事業者から「隙間を埋める防水ゴムが不足してきている。」「資材が値上がりしたり不足したりして、売りに上げに影響が出そうだ。これからの経営が不安だ。」などの声が挙がっています。</p> <p>当市において、物価高騰、原油やナフサ不足などによる生活の影響、事業者への影響はどのようになっているか。どのように実態を把握され、どのような対策を立てられるのか伺います。</p>	市 長
		<p>2. 学校統合について</p> <p>これまでの学校統合の流れをみると、令和元年5月に、市教育委員会は「第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針」を策定。小学校の再編の基本方針は、【1学年1学級以上】。主に、複式学級解消を目的に統合を進めることを確認。中学校については、地域説明会、保護者アンケート、自治組織から意見を聴取しましたが、中学校学区再編は同意を得ることはできませんでした。</p> <p>その後、「中学校のあり方検討委員会」が設置され、その提言を具現化（学校統合の方針）することに向け、現在「みんなの学校プロジェクト」で協議が進められております。そして、6月に「まとめ報告」がなされる予定です。</p> <p>人口減少、少子化は大きな課題です。「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」は、学校統合を進める一方、副題として「少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて」ともあり、小規模校を存続させる場合の教育の充実も掲げられています。私は、副題のこの視点は重要と考えています。また、地域コミュニティの性格を持つ学校は、「地域の未来を担う子ども達を育てる教育の場でもあり、まちづくりの在り方と密接」にかかわるとも述べられています。</p> <p>人口減少と少子化は、厳しい現実です。しかし、「地域とともにある教育」の視点で、新たな学校の姿を議論することも重要であると考えますが、教育長の考えを伺います。</p>	教育長